

講義名	読書力		
科目区分	教養科目		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、その一冊の本には著者の色々な思いが込められている。そこで、教科書や課題図書を選材にして、そこに記された内容の中から時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。講義では、教科書や課題図書を皆で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文章にまとめ、「書く力」を養う。さらに、講義中は、受講生が会話をしながら、ディスカッションを行うことがある。お互いに意見を交換しあうことで、「聞く力」を養う。このようにしながら、「文章を読む」ということに対して読解力や向学心を育てていきたい。

**到達目標**

教科書や課題図書を読みながら本に慣れ親しみ、本の中で興味のあるテーマについて自分の感想や考えを述べるようになる。

**提出課題**

1. 講義では、毎時間、小レポートおよび感想文の課題を提出してもらう。  
2. 学期末には、レポート試験を実施する。課題の詳細は、別途指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

毎回の授業の最後に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の授業などで、読書に関する考え方として紹介する。

**評価の基準**

毎回の講義における小レポートまたは感想文（60点）、学期末のレポート試験（40点）を総合して評価する。講義中のディスカッションへの参加はプラスポイントとするので、積極的な参加を期待する。

**履修にあたっての注意・助言他**

1. 【重要】1回目の講義から、教科書を使用する。  
そのため、1回目の講義までに教科書を各自で購入し、教科書は必ず持参すること。  
教科書は、教科書購入期間に、必ず購入しておくこと。  
2. 教科書の他に、課題図書（大学の図書館が所蔵、新書版または文庫本）を使用する。  
課題図書の貸出・返却の手続きは、各自が図書館で行うこと。  
各時間に使用する課題図書（書名）は、1回目の講義で指示する。  
3. 事前に課題図書を読んで、予習を必ずしておくこと。  
4. 本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を醸成してもらいたい。

教科書	『読み上手 書き上手』（ちくまプリマー新書076）、	齋藤孝	筑摩書房	800円+税	ISBN978-4-480-68778-4
-----	----------------------------	-----	------	--------	-----------------------

**プリント資料及び参考文献**

プリント資料は、必要に応じて配布する。  
参考文献は、講義中に適宜紹介する。

**授業計画**

1. 「読書力」とは読書に慣れ親しむということ
2. 読書を考える
3. 読書を考える 伝える力を養う
4. 読書を考える 記録と記憶の技術
5. 読書を考える 読む技術
6. 読書に親しむ 民俗学への招待(1)
7. 読書に親しむ 民俗学への招待(2)
8. 読書に親しむ 民俗学への招待(3)
9. 読書に親しむ 日本文化のルーツを探す(1)
10. 読書に親しむ 日本文化のルーツを探す(2)
11. 内容を理解する 地域の特性
12. 内容を理解する 日本の生業
13. 内容を理解する 人間社会と自然のバランス
14. 内容を理解する 日本の生活文化
15. まごの読書を習慣化することの意味

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

**準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習：次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、各自、教科書と課題図書を読んでおく。各回の講義の最後でも、翌週の講義の内容を紹介する。また、そのテーマについて、翌週までに興味のある事柄を1つ調べる（約1時間）。  
復習...講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる小レポートや感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点等を確認する（約1時間）。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

この講義では、各回の前半は教科書・課題図書を用いた講義の形式で進める。また、各回の後半は、その日の講義のテーマや翌週のテーマについて、受講生による話し合いの機会を設けることがある。

**実務経験の有無及び活用**

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関わる書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

**備考**

一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず各自が興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。